

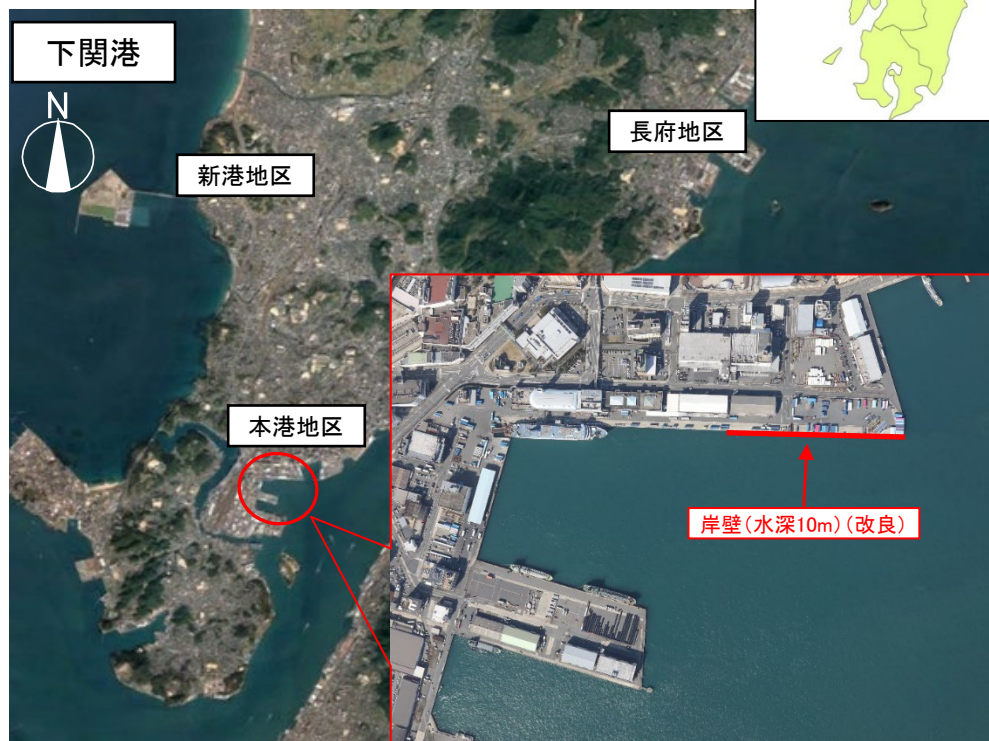
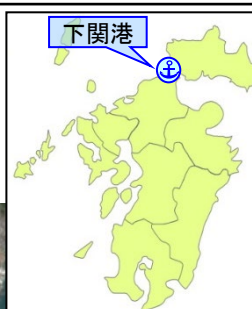
■ 事業概要

○下関港本港地区の既存岸壁では、エプロンのひび割れや上部工の損傷等、老朽化が進行している状況。

○本港地区の既存岸壁において、老朽化対策（岸壁改良）を実施することで、港湾施設の利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

事業内容

- 令和7年度配分額（事業費）： 4.0億円
- 令和7年度の実施内容： 岸壁の改良



整備効果

○予防保全型維持管理の観点から、老朽化対策（岸壁改良）を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。

エプロンのひび割れ状況



上部工の損傷状況



老朽化対策
（岸壁改良）

港湾施設利用の
安全性の確保

海上交通ネット
ワークの維持

■ 事業概要

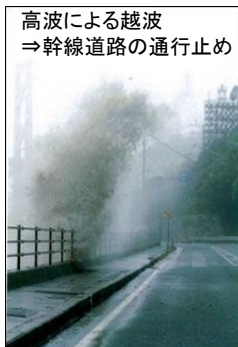
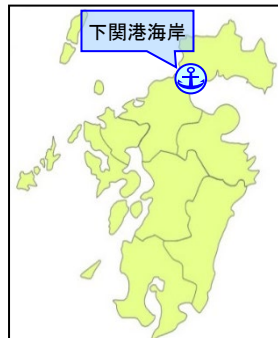
○下関港海岸は、背後に幹線道路や住宅地等の市街地が広がるとともに、企業・事業所が臨海部に集積しており、平成11年の台風18号で発生した高潮によって背後地域が甚大な浸水被害を受けた。

○長府・壇ノ浦地区及び山陽地区において、護岸等の整備を行い、台風襲来等に伴う高潮・高波による浸水被害を防ぐ。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費):15.2億円
- 令和7年度の実施内容 :護岸等の整備

【過去の被害状況】



整備効果

○護岸等の整備により、背後の幹線道路や住宅地、企業、事業所等における台風等に伴う高潮・高波の浸水被害を防ぎ、地域住民の生命・財産を防護し、立地企業の経済的損失を回避する。

【山陽地区護岸整備の状況】



■ 事業概要

○西海岸地区の当該岸壁では、鋼管杭等の劣化が著しく岸壁施設としての機能不全であり、安定性の確保ができていない状況。

○西海岸地区において、老朽化対策(岸壁改良)を実施し、港湾施設利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 4.5億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁の改良



整備効果

○予防保全型維持管理の観点から、老朽化対策(岸壁改良)を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。

下部工 孔食状況

西海岸地区
岸壁(水深11m)

港湾施設利用の
安全性の確保

海上交通ネット
ワークの維持

老朽化対策
(岸壁改良)

■ 事業概要

○博多港香椎パークポート地区、箱崎ふ頭地区の既存岸壁では、上部工のひび割れの発生等の老朽化が進行しており、中央航路地区の既存の航路では、経年的な埋没により、浅所箇所が出現している状況。

○上記の施設において、老朽化対策（岸壁改良、浅所浚渫）を実施し、港湾施設利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

事業内容

- 令和7年度配分額（事業費）：22.8億円
- 令和7年度の実施内容：岸壁、航路の改良



整備効果

○予防保全型維持管理の観点から、老朽化対策（岸壁改良、浅所浚渫）を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。

上部工下面 錆汁状況



香椎パークポート地区
岸壁(水深13m)

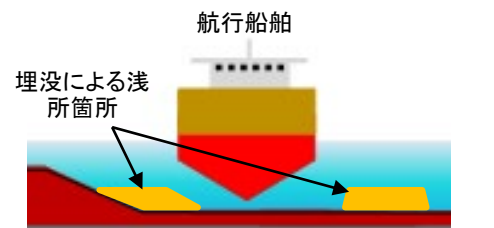
上部工下面 鉄筋腐食状況



箱崎ふ頭地区
岸壁(水深12m)

老朽化対策
(岸壁改良)

港湾施設利用の
安全性の確保



中央航路地区
航路(水深12m)(改良)

老朽化対策
(浅所浚渫)

海上交通ネット
ワークの維持

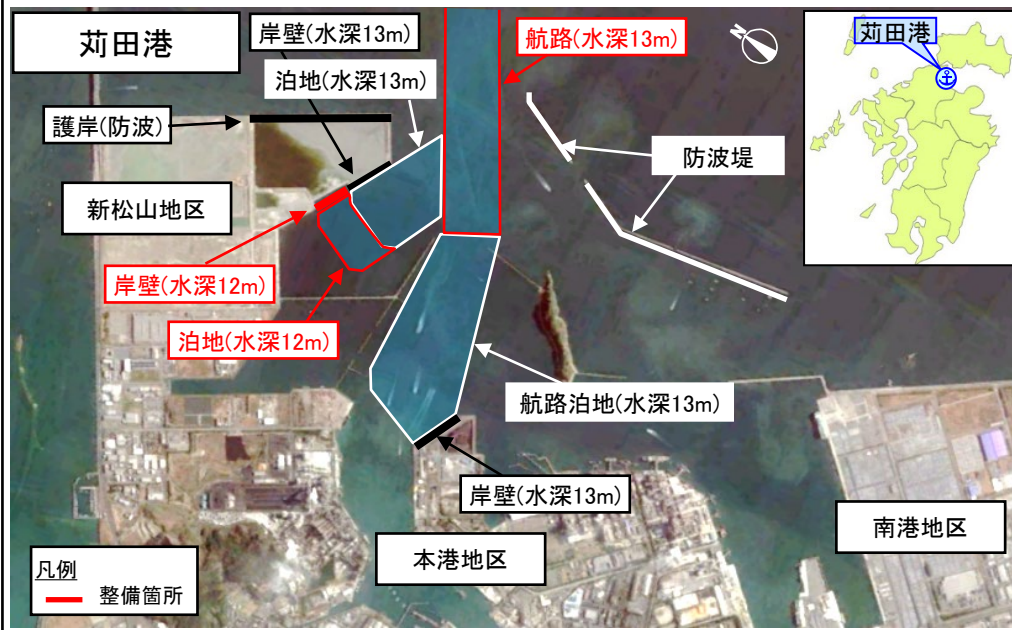
■ 事業概要

○苅田港の背後には、発電企業やセメント関連企業等が立地している一方、近年ではバイオマス発電企業等が進出するなど新たな貨物の取り扱いが開始されている中、背後企業が取り扱う貨物需要の増加とそれに伴う船舶の大型化に対応できていない状況。

○苅田港の国際物流ターミナルの整備(岸壁、航路等)を実施することで、バイオマス発電企業等の新規取扱貨物の増加に対応した一括大量輸送が可能となり輸送の効率化を図る。

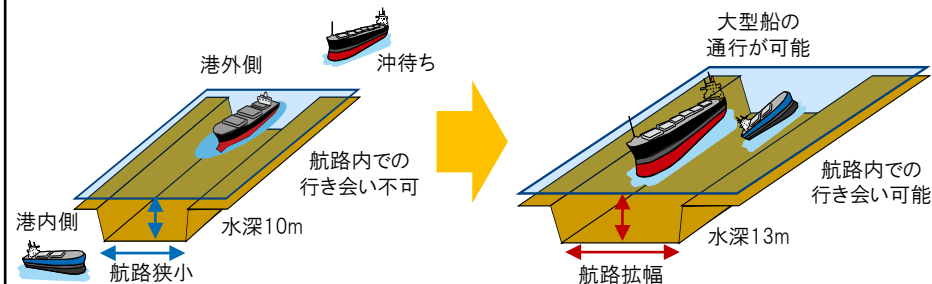
事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 14.2億円
- 令和7年度の実施内容 : 航路、泊地、岸壁の整備



主な整備効果

- 大型岸壁の整備や航路の拡幅増深を行い、船舶の大型化に対応することで、非効率な輸送が解消され、企業の国際競争力の強化や地域経済の活性化が期待される。



【航路の増深・拡幅の効果イメージ】

- 新たな岸壁整備により、大型船での大量輸送が可能となり、効率的な物流が実施されることで、既存産業の活力の維持・向上及び新規分譲用地への新規企業の立地等が期待され、地域経済の活性化や新たな雇用創出が期待される。



【バイオマス燃料の荷役状況】

■ 事業概要

○三池港内港北地区の航路(水深10m)では、経年的な埋没により、浅所箇所が出現している状況。

○内港北地区において、老朽化対策(浅所浚渫)を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

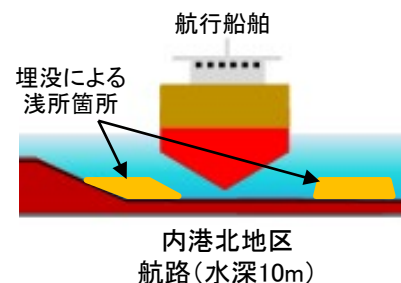
事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 5.4億円
- 令和7年度の実施内容 : 航路の改良



整備効果

○予防保全型維持管理の観点から、老朽化対策(浅所浚渫)を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。



※図はイメージ

港湾施設利用の
安全性の確保

海上交通ネット
ワークの維持

北九州空港滑走路延長事業【直轄】

継続

港空－7

■ 事業概要

○北九州空港では、航空貨物需要の増加に伴い、国際貨物取扱量が増加傾向にあるが、滑走路長（現在2,500m）の不足により、北米や欧州等に貨物を輸送するための長距離国際貨物定期便の就航に対応できない状況である。

○北九州空港において、長距離国際貨物定期便の就航に対応した滑走路長（必要滑走路長3,000m）を確保するため、現滑走路（現滑走路長2,500m）の南側に滑走路の延長整備（500m延長）等を行い、航空貨物輸送拠点の形成促進を図る。

事業内容

○令和7年度配分額（事業費）：19.0億円

○令和7年度の実施内容：用地造成、滑走路・誘導路の整備



滑走路延長諸元	滑走路延長の方向	南側に500m延長
	延長後の滑走路形状	延長：3,000m、幅：60m
事業期間		令和5～9年度
総事業費		約130億円

整備効果

○北九州空港に長距離国際貨物定期便の就航が可能となることで、関東や関西の空港を利用していた北米・欧州向け貨物の陸上輸送の負担等が軽減され、背後圏産業の国際競争力の向上が期待される。

■ 北米路線イメージ



【現在】滑走路長：2,500m → 【将来】滑走路長：3,000m（500m延長）

長距離運航に必要な貨物や燃料等の積載が可能

■ 事業概要

- 唐津港東地区では、老朽化対策と合わせた耐震強化岸壁の整備進捗により、貨物の取り扱いやクルーズ船の寄港が進む一方で、航路泊地の整備が完了しておらず、水深が確保できていない状況。
- 東港地区において、複合一貫輸送ターミナルの航路泊地整備を実施することで、国内貨物の輸送効率化、大規模災害発生時の緊急物資輸送船舶の受け入れに対応する。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 2.1億円
- 令和7年度の実施内容 : 航路泊地の整備



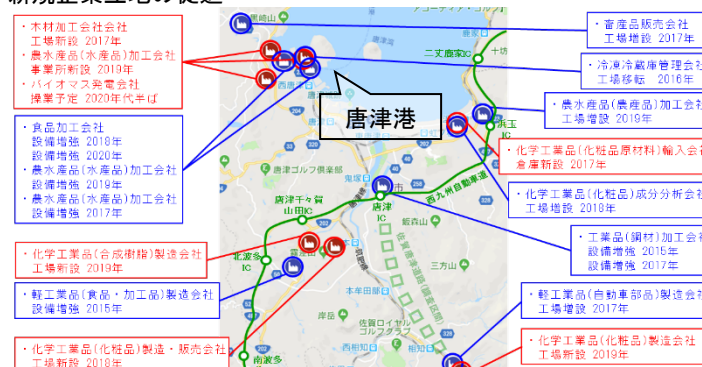
主な整備効果

- 施設の老朽化対策と合わせて、大規模地震に対応した施設を整備したことで、貨物の取り扱いやクルーズ船の寄港が進み、輸送効率化による輸送コストの削減、国際観光収益の増加等を実現し、地域産業の競争力の確保・強化に寄与している。

岸壁供用後の利用状況



新規企業立地の促進



企業立地等による投資額(約140億円)および雇用者(約400人)の増加が期待される

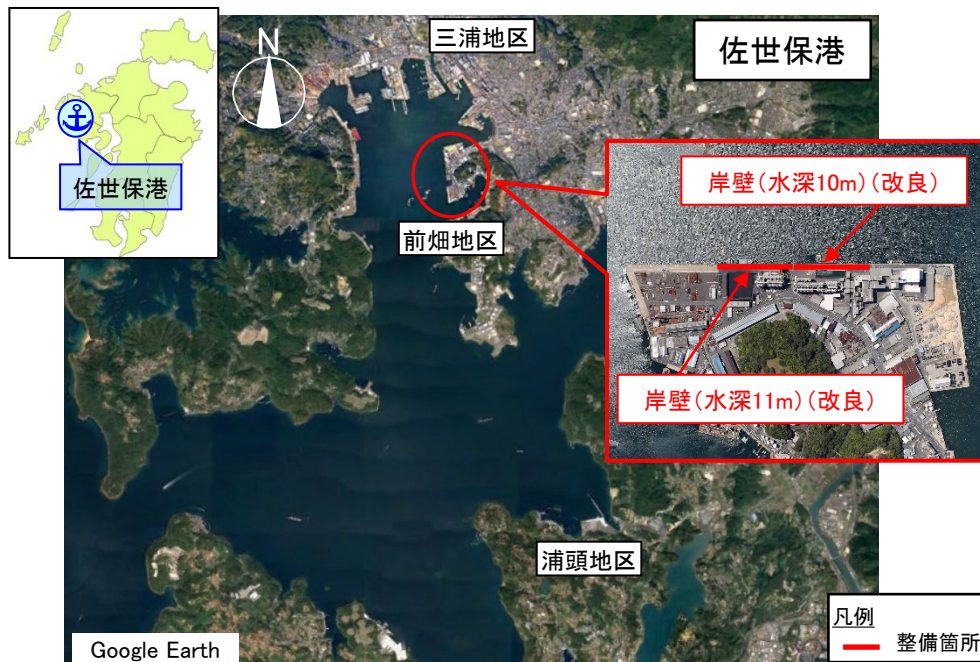
■ 事業概要

○佐世保港前畑地区の既存岸壁では、本体鋼管杭の腐食、本体コンクリートの剥離の発生等、老朽化が進行している状況。

○前畑地区において、老朽化対策（岸壁改良）を実施することで、港湾施設の利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

事業内容

- 令和7年度配分額（事業費）： 2.3億円
- 令和7年度の実施内容： 岸壁の改良



整備効果

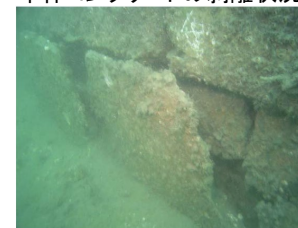
○予防保全型維持管理の観点から、老朽化対策（岸壁改良）を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。

本体鋼管杭の腐食状況



前畑地区
岸壁（水深10m）

本体コンクリートの剥離状況



前畑地区
岸壁（水深11m）

老朽化対策
（岸壁改良）

港湾施設利用の
安全性の確保

海上交通ネット
ワークの維持

■ 事業概要

○厳原港厳原地区の防波堤は、港内静穏度の確保に重要な施設であるが、消波工の沈下等による高波浪時の堤体の安定性が低下し、老朽化が進行している状況。

○厳原地区において、老朽化対策(防波堤改良)を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 1.7億円
- 令和7年度の実施内容 : 防波堤の改良



整備効果

- 予防保全型維持管理の観点から、老朽化対策(防波堤改良)を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。

消波工 沈下状況



防波堤(北) 越波状況



厳原地区
防波堤(北)

老朽化対策
(防波堤改良)



港湾施設利用の
安全性の確保

海上交通ネット
ワークの維持

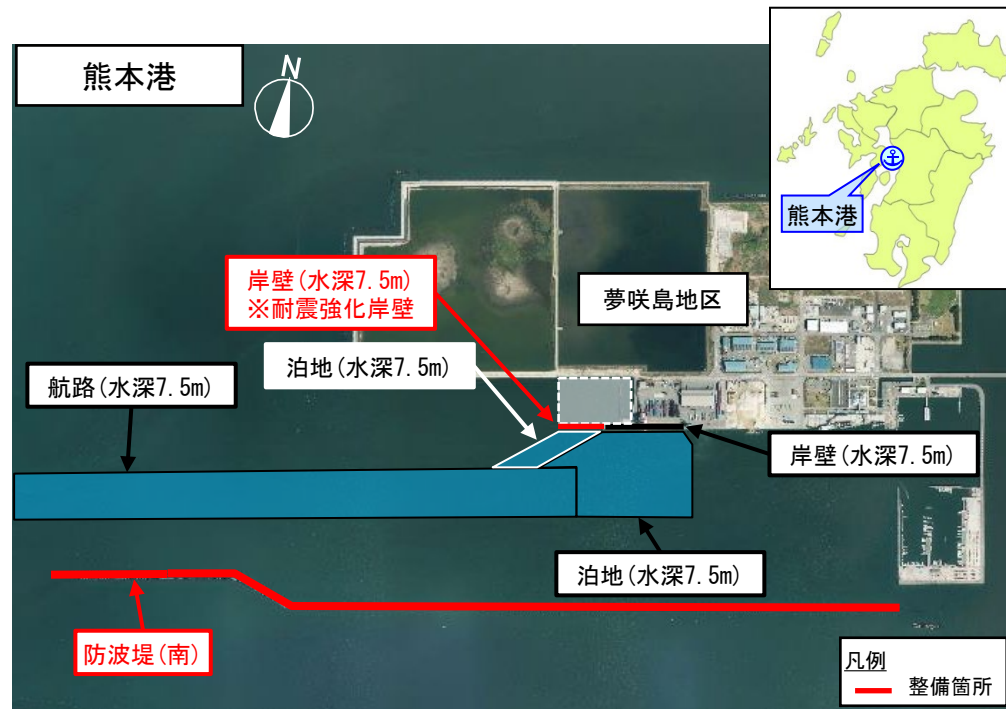
■ 事業概要

○熊本港夢咲島地区では、半導体企業関連企業の新たな進出等を受けた新たな貨物の取り扱いが想定される中、背後企業が取り扱う貨物需要の増加に対応できていない状況。

○夢咲島地区において、国内物流ターミナル(岸壁、防波堤)を整備することで、半導体企業関連企業の新規貨物の増加へ対応するとともに、大規模災害発生時の緊急物資輸送船舶の受け入れに対応することによる防災機能の強化を図る。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 8.6億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁、防波堤の整備

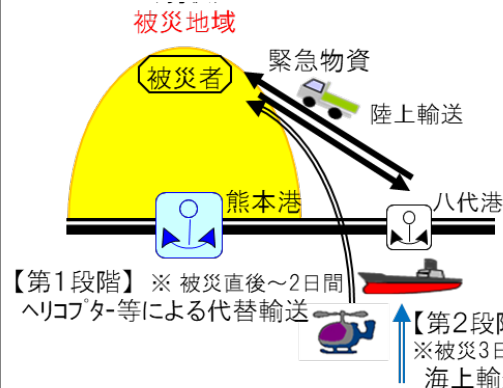


整備効果

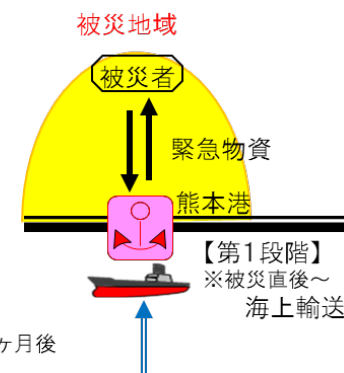
○熊本港整備の進捗、コンテナターミナルの機能充実に伴い、熊本港における外貿コンテナ貨物の取扱量が増加しており、都市圏背後に立地する企業の輸送拠点として熊本経済の発展に寄与している。

○また、大規模地震に対応した施設を整備することにより、災害発生時の緊急物資輸送船の受け入れが可能となり、防災機能の強化に資する。

整備前



整備後



■ 事業概要

○八代港は、穀物飼料の原料輸入及び飼料生産・供給拠点として、中九州地域を中心とした畜産業を支えている一方、穀物運搬船の大型化に対応できる施設がないため、喫水調整により入港する等、非効率な輸送を強いられている。

○外港地区において、国際物流ターミナルの整備(航路増深)を実施することで、船舶の大型化に対応した輸送の効率化を図る。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 18.2億円
- 令和7年度の実施内容 : 航路の整備

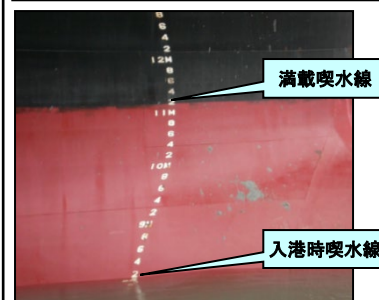
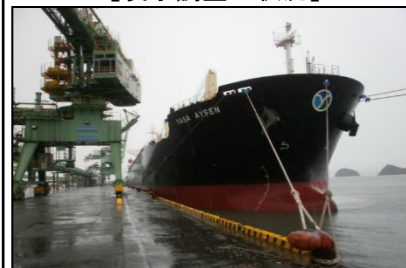
八代港



整備効果

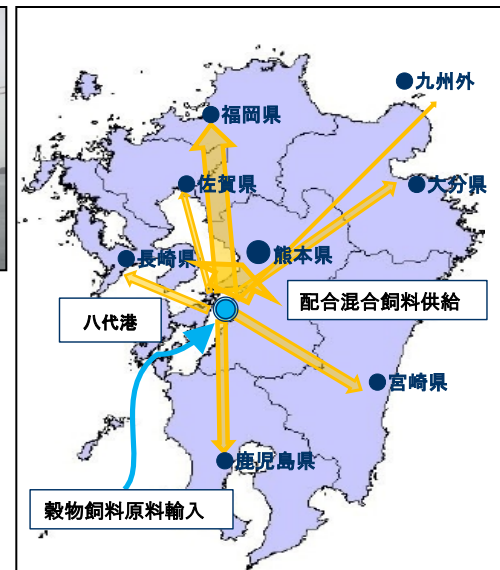
○船舶の大型化に対応した施設を整備することで、一括大量輸送による輸送コストの削減を実現し、畜産業の国際競争力確保に寄与する。

【喫水調整の状況】



3万トン以上の入港船舶は喫水調整により入港

【配合・混合飼料供給先(イメージ)】



■ 事業概要

○有明・八代海、瀬戸内海（周防灘）において、海洋環境整備船による浮遊ゴミ等の回収作業を実施する。海洋環境整備船により担務海域の環境調査を実施し、海域環境の変化を把握する。

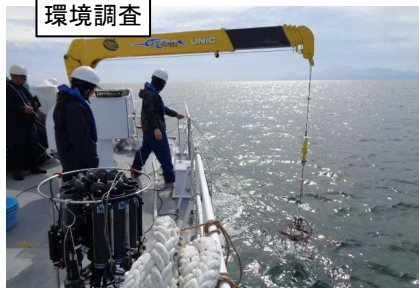
○また、管轄区域以外で流木等航行障害物の大量漂流や油流出事故等が発生した場合は、関係機関からの要請に基づき、大型油回収船又は海洋環境整備船を緊急出動させ、当該漂流物等を回収する。

事業内容

○令和7年度配分額（事業費）：7.1億円

○令和7年度の実施内容：浮遊ゴミ等の回収、環境調査

環境調査



環境整備船による漂流ゴミ回収



多関節クレーンによる流木の回収



整備効果

○船舶航行の安全確保および海域環境の保全を図る。

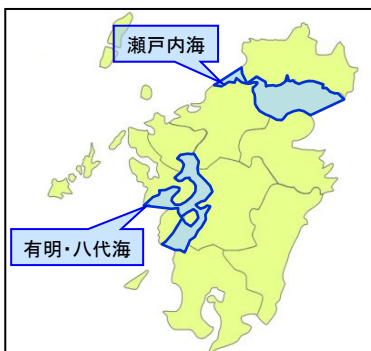
スキッパーによるゴミ回収



陸揚げした回収ゴミ



漁業者との連携回収



■ 事業概要

○別府港石垣地区の既存岸壁では、船舶のスラスターによる岸壁前面の洗掘や上部工にひび割れ等、老朽化が進行している状況。

○石垣地区において、老朽化対策（岸壁改良）を実施することで、港湾施設の利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 4.3億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁の改良

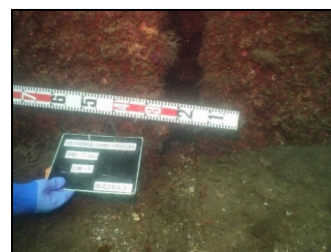
別府港



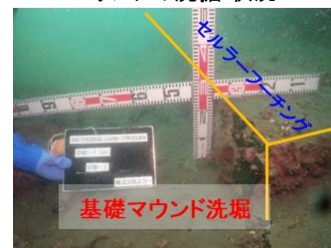
主な整備効果

- 予防保全型維持管理の観点から、老朽化対策（岸壁改良）を実施することで、港湾施設利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。

目地の開き状況



マウンドの洗掘 状況



老朽化対策
(岸壁改良)

港湾施設利用の
安全性の確保

海上交通ネット
ワークの維持

■ 事業概要

○大分港では、近年、RORO貨物が増加している一方で、既存岸壁の水深不足により、RORO船は喫水調整を強いられているとともに、シャーシ置場が点在していることで荷役時の横持ちが発生する等、非効率な荷役を強いられている。

○大在西地区において、複合一貫輸送ターミナル(岸壁、防波堤)の整備を実施することで、RORO貨物の増加に対応するとともに、輸送・荷役の効率化を図る。

事業内容

○令和7年度配分額(事業費) : 3.1億円

○令和7年度の実施内容 : 岸壁、防波堤の整備



主な整備効果

○耐震性を備えた施設整備により、背後圏48万人の緊急物資輸送体制の構築に加え、RORO船の大型化による海上輸送の容量増加に伴う陸上輸送からのモーダルシフトが進展する。

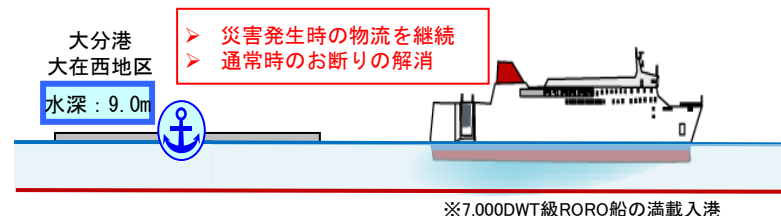
整備前

喫水調整の上限値
積載率: 60% (78台/130台)



整備後

喫水調整の上限値
積載率: 100% (130台/130台)



■ 事業概要

○大分港海岸は、県都大分市の市街地と製鉄業や石油化学工業を中核とする臨海工業地帯を防護する海岸線を形成しており、南海トラフ地震・津波の切迫性に加え、過年度の台風時の高潮・高波によって背後地域の浸水被害を受けた。

○住吉地区、津留地区、乙津地区及び鶴崎地区において、護岸等の整備を行い、南海トラフ地震・津波や台風襲来時等に伴う高潮・高波による浸水被害を防ぐ。

事業内容

○令和7年度配分額(事業費):11.6億円

○令和7年度の実施内容:護岸(改良)等の整備

【過去の被害状況】

平成26年台風19号により高潮・高波が発生し浸水



大分港海岸



整備効果

○護岸等の整備により、市街地、臨海工業地帯等における台風等に伴う高潮・高波の浸水被害を防ぎ、地域住民の生命・財産を防護し、立地企業の経済的損失を回避する。

【津留地区護岸整備の状況】

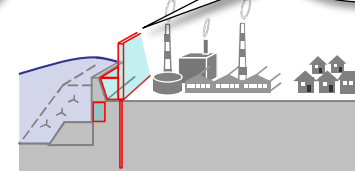
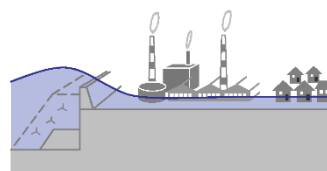


護岸高さ不足のため越波・浸水が発生



整備後

護岸整備により
背後地を防護



■ 事業概要

○細島港では、港湾背後の化学関連企業等が設備増強を進めている中、既存岸壁の水深不足により、貨物需要の増加に対応した船舶の大型化に対応できない状況。

○工業港地区において、複合一貫輸送ターミナル(岸壁)の整備を行うことで、RORO船の喫水調整の解消や大型新造船の就航を可能とし、背後企業の貨物需要に対応するとともに、国内幹線物流機能の強化を図る。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 6.0億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁の整備

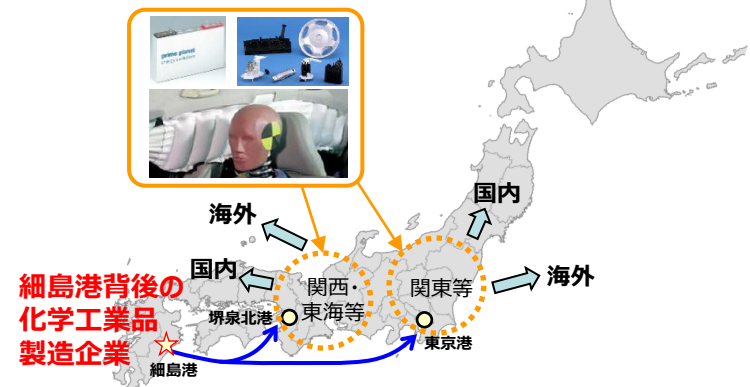


主な整備効果

- 岸壁等の整備により、RORO船の喫水調整の解消や大型新造船の就航が可能となる。これにより、背後企業の競争力強化と化学工業品の安定的な国内供給が可能となり、それら製品を利用する自動車産業等の生産基盤の強化や国際競争力が向上する。

地域の化学工業の振興及び 化学工業品の安定的な国内供給

細島港背後企業の化学工業品を使用した
自動車部品等の流通イメージ

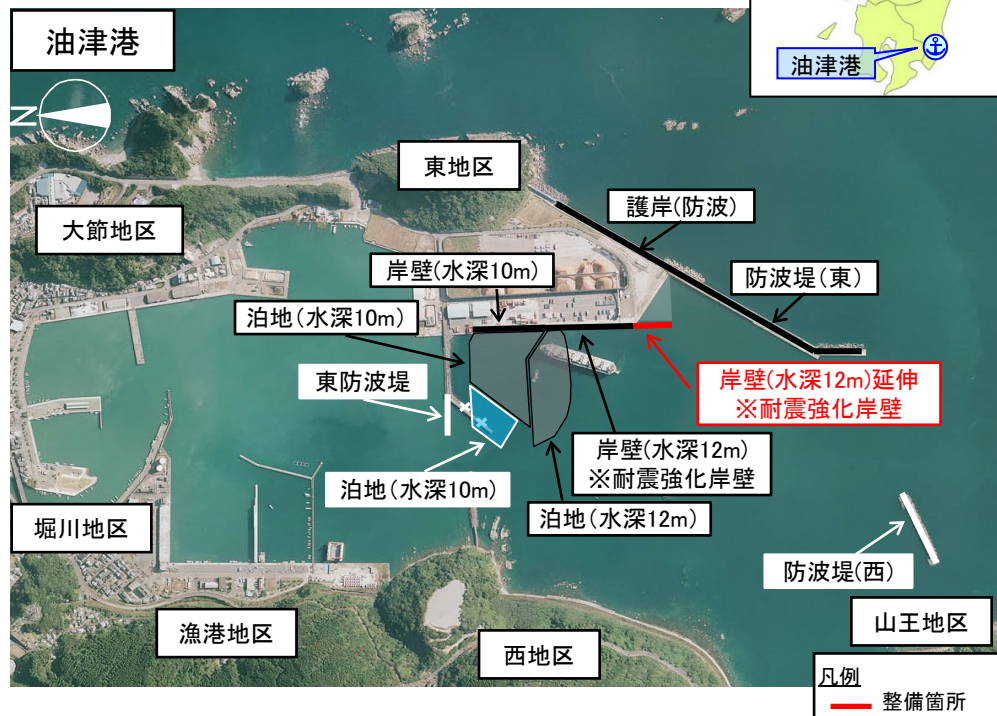


■ 事業概要

- 油津港東地区では、宮崎県南地域の産業関連物資の輸送効率化に資するため物流ターミナルの整備を進めている一方、背後企業が取り扱う貨物需要の増加に対応できていない状況。
- 東地区において、国際物流ターミナル(岸壁)の整備を実施することで、貨物需要に対応した船舶の大型化による船舶航行の安全性の確保、物流機能の効率化を図るとともに、大規模災害発生時の緊急物資輸送船舶の受け入れに対応する。

事業内容

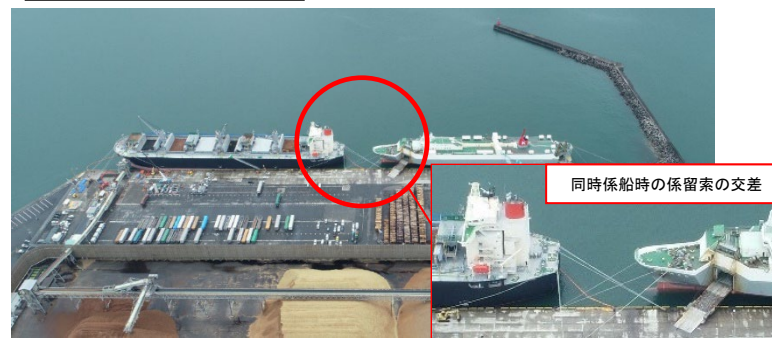
- 令和7年度配分額(事業費) : 3.1億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁の整備



整備効果

- 国際物流ターミナルの整備により岸壁(水深12m)を延伸することで、同時接岸時の係船索の交差による不安全的係留の解消や沖待ち解消による物流機能の効率化に寄与する。

<同時接岸の課題①>



<同時接岸の課題②>



岸壁延伸

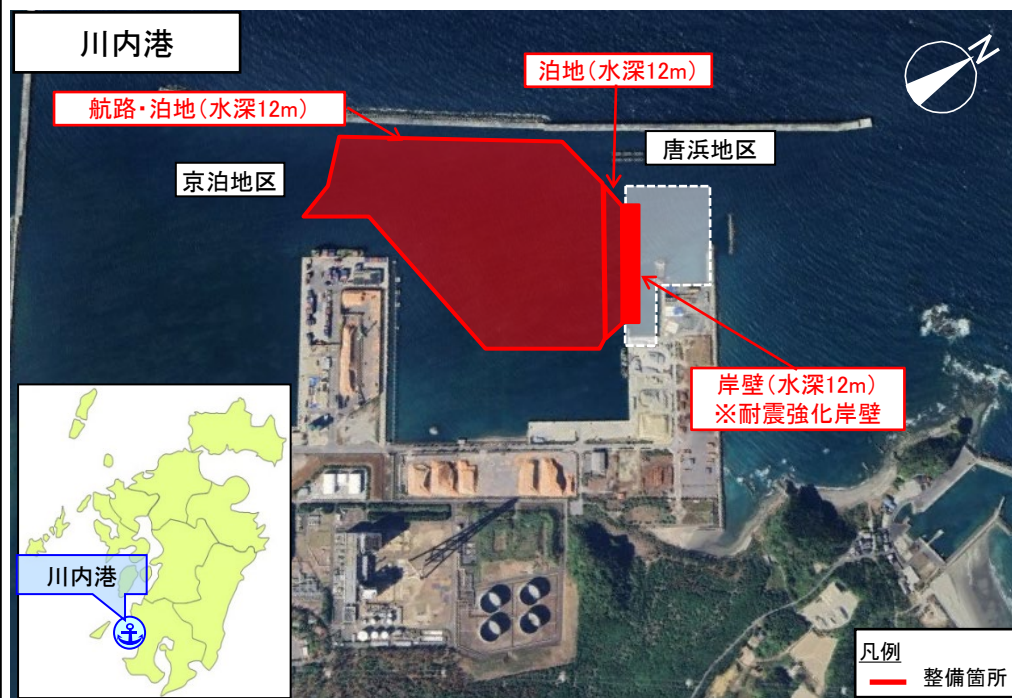
同時接岸時の安全性確保・貨物船の待避解消

■ 事業概要

- 川内港は、背後産業の原材料や製品等を取り扱う北薩地域の物流拠点として重要な役割を果たしている。また、川内港背後圏の木材素材生産量は増加傾向であり、最寄りの川内港からの林産品輸出の要請があるが、岸壁の制約から、非効率な輸送を強いられている。
- 唐浜地区において、国際物流ターミナル(岸壁、泊地等)の整備を実施することで、国内幹線物流機能の強化を図るとともに、大規模災害発生時の緊急物資輸送船舶の受け入れに対応する。

事業内容

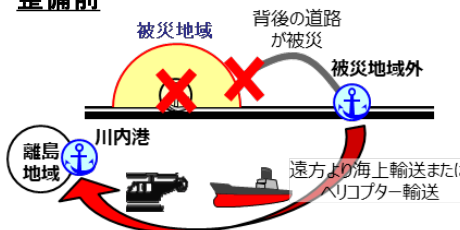
- 令和7年度配分額(事業費) : 8.3億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁、泊地、航路・泊地の整備



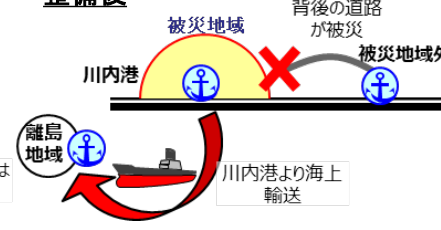
整備効果

- 本事業の実施により、船舶が大型化され、1回あたりに輸送できる貨物量が増加し、海上輸送が効率化する。また、近隣の川内港を利用することにより、輸送距離が短縮され、陸上輸送が効率化する。

整備前

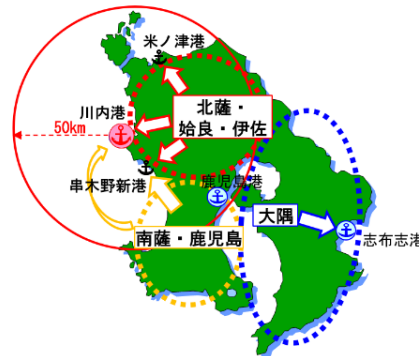


整備後



- 本事業の実施により、木材輸出が促進されることで、適切な木材の利用が図られ、地域における林業の振興に寄与する。

【川内港での原木積み込み状況】



鹿児島県は豊富な森林資源を有しており、特に川内港背後圏の木材の素材生産量は増加傾向

鹿児島港臨港道路整備事業(鴨池中央港区線)【直轄】

継続

港空-20

■ 事業概要

○鹿児島港は、鹿児島市の南北約20kmの範囲におよび、離島との基地港として島民の生活を支えるとともに、地域産業を支える物流拠点として重要な役割を果たしている。一方、港内南北の臨港道路のうち、鴨池港区から中央港区間が未整備で繋がっていない状況となっている。

○鴨池港区から中央港区間において、臨港道路における港湾物流のボトルネックを解消し、円滑な港湾物流の確保とともに、市内幹線道路の交通渋滞を緩和する。

事業内容

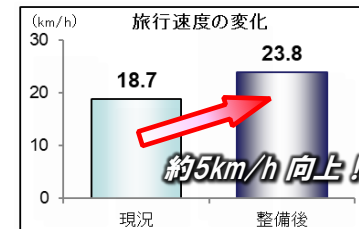
○令和7年度配分額(事業費) : 36.1億円

○令和7年度の実施内容 : 臨港道路の整備



主な整備効果

○臨港道路の整備により、交通混雑が緩和することで、円滑な港湾物流の確保と、市内幹線道路の交通渋滞を緩和する。



混雑度の変化	
現況	整備後
1.35	⇒ 1.09
現況はR1.7月交通量調査結果より 将来はH42交通量推計より	

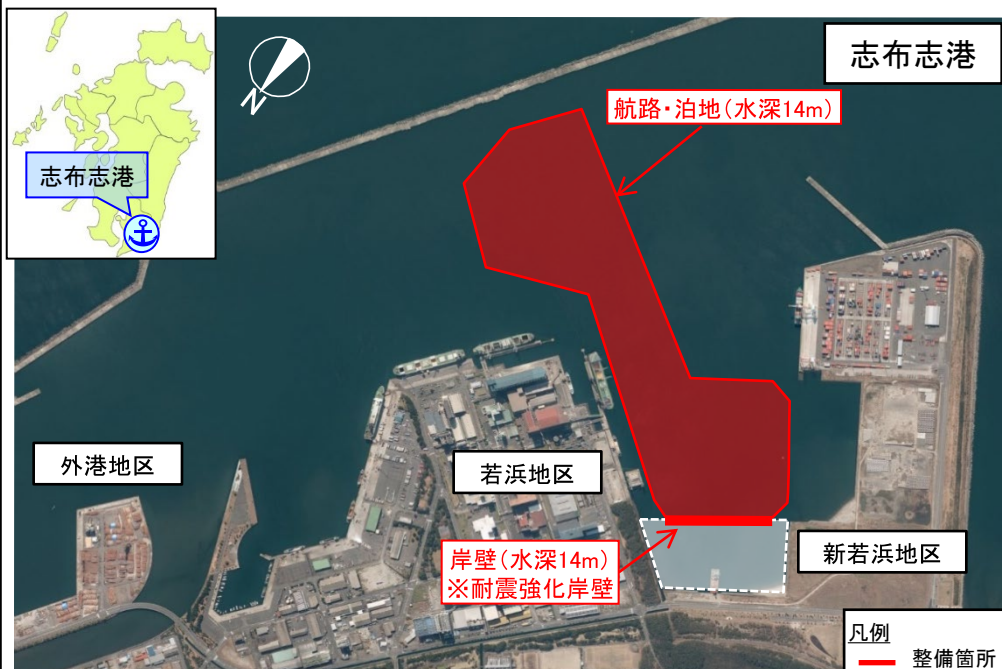
■ 事業概要

○志布志港は、日本屈指の農畜産地帯である南九州地域への飼料等の供給拠点として重要な役割を果たしている。一方で、効率的な輸送体系の構築、既存施設の老朽化への対応及び大規模地震発生後の物流機能の確保等の課題が顕在化している。

○新若浜地区において、耐震性を備えたターミナルの整備を実施することで、大型穀物船による一括大量輸入への転換を促進するとともに、配合飼料原料の輸送効率化等を推進する。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 2.8億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁、航路・泊地の整備



主な整備効果

○岸壁等の整備により、大型穀物船(満載)による一括大量輸入が可能となり、安価で安定的な飼料供給を行うことで、南九州地方における畜産経営の安定化や消費者に対する畜産物の安定供給を図る。

【岸壁(水深14m)を経由した大型穀物船による一括大量輸入のイメージ】



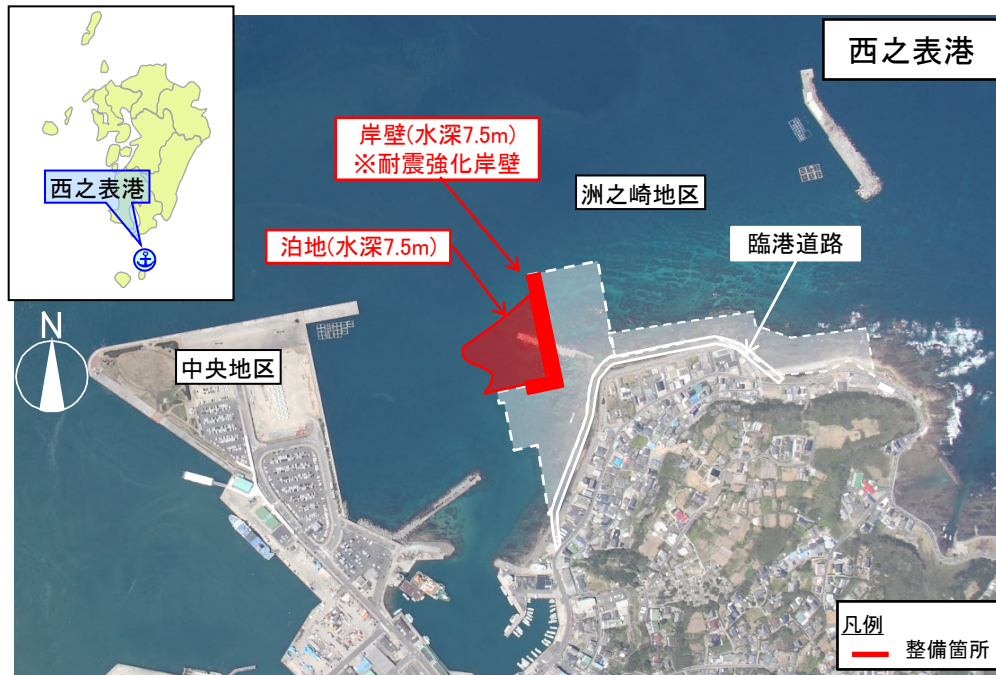
■ 事業概要

○西之表港のRORO航路は、種子島で唯一の貨物専用定期航路であり、住民の生活物資、生産品等の物資を輸送しているが、既存岸壁の制約により、繁忙期等に積残しが生じており、将来的な船舶大型化にも対応できない状況。また、西之表港では耐震強化岸壁が整備されておらず、地震発生時の種子島及び周辺離島の海上輸送機能の確保が急務となっている。

○洲之崎地区において、複合一貫輸送ターミナル(岸壁、泊地)の整備を行い、貨物需要の増大に伴う船舶の大型化に対応するとともに、大規模災害発生時の緊急物資輸送船舶の受け入れに対応する。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 4.0億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁、泊地の整備



主な整備効果

- 本事業の実施により、種子島で唯一の耐震強化岸壁が整備されることで、被災時においても海上輸送が可能となり、背後地域の社会・経済活動を維持することが期待される。
- また、種子島のみならず、周辺離島の海上輸送機能が確保され、周辺離島も含めた地域住民の安全・安心が確保される。



【周辺離島が被災した場合の物流の動き(イメージ)】

■ 事業概要

①立神地区防波堤改良事業

○名瀬港立神地区の防波堤では、平成30年の台風24号による高波の来襲で、堤体の滑動・転倒等が多数発生した。

○立神地区の防波堤(沖)において、再度災害防止の観点から対策工事を実施し、港湾施設利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

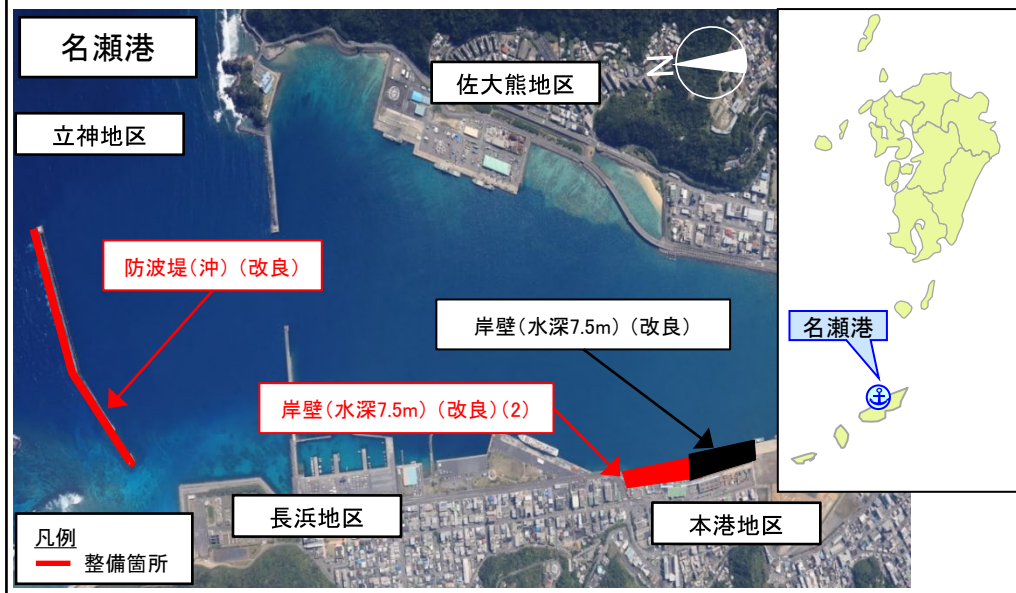
②予防保全事業

○名瀬港本港地区の既存岸壁では、本体上部の劣化や舗装のひび割れ等、老朽化が進行している状況。

○本港地区の既存岸壁において老朽化対策を実施し、港湾施設利用の安全性を確保するとともに、海上交通ネットワークを維持する。

事業内容

- 令和7年度配分額(事業費) : 8.1億円
- 令和7年度の実施内容 : 岸壁、防波堤の改良



整備効果

○再度災害防止や予防保全型維持管理の観点から対策工事を実施することで、港湾施設の利用の安全性を確保し、海上交通ネットワークを維持する。

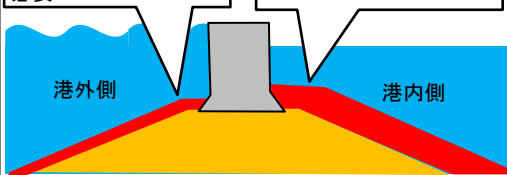
本体上部工の腐食状況 舗装のひび割れ状況



本港地区岸壁(水深7.5m)

再度災害防止のために
港外側被覆工の補強が必要

再度災害防止のために
港内側腹付工が必要



老朽化対策
(岸壁改良)

再度災害防止対策
(防波堤改良)

港湾施設利用の
安全性の確保

海上交通ネット
ワークの維持

■ 事業概要

○指宿港海岸は、温泉観光都市である指宿市の中核となる観光施設や宿泊施設の多くが海岸沿いに集積している中、砂浜の著しい侵食と既設護岸の老朽化により、過年度の台風時の高潮・高波によって背後地域の浸水被害や背後道路の陥没等が発生。

○湯の浜地区において、護岸等の整備を行い、台風来襲等に伴う海浜侵食や高潮・高波による浸水被害を防ぐ。

事業内容

○令和7年度配分額(事業費):6.6億円

○令和7年度の実施内容 :護岸(改良)等の整備

【過去の被害状況】

平成24年台風16号による越波



湯の浜地区



指宿港海岸



指宿港海岸



凡例
— 整備箇所

整備効果

○護岸等の整備により、観光施設、宿泊施設、市街地等における台風等に伴う高潮・高波の浸水被害を防ぎ、地域住民の生命・財産を防護し、地域産業の経済的損失を回避する。

【湯の浜地区護岸整備の状況】

現在の海岸

侵食された砂浜

侵食幅平均約 30m



海岸整備により
背後地を防護



砂浜の整備により
海岸利用も促進